

いじめや不登校を生じさせない重層的な支援体制の整備・強化

対策のポイント

- ・いじめ、不登校が生じないような魅力ある学校づくりと心のSOSを見逃さない早期発見・「チーム学校」による早期対応・支援を徹底するため、専門人材や関係機関等と連携した学校の体制を強化
- ・不登校児童生徒全ての多様な学びの場、居場所を確保するために、オンラインサポートや校内サポートルームの設置促進、学びの多様化学校の設置、フリースクールとの連携協力など、学びたいときに学べる学校内外の環境を整備

現状・課題

- ◆本県のいじめの重大事態の発生件数は全国平均より高い状況が続いていたが、R6は全国平均並み ※千人あたりの重大事態発生件数（小・中・高等学校）高知県:0.11件、全国:0.11件（R6年度）
- ◆本県の小中学校における不登校出現率は、3年連続全国平均を下回ったが、依然として出現率は高い状況が続いている ※千人あたりの不登校児童生徒数 高知県:34.9人、全国:38.6人（R6年度）
- いじめ・不登校が長期化・深刻化しないよう、認知した段階から保護者や関係機関、SC・SSW（*）等専門人材と連携し、早期の情報共有と解消・改善に向けた早期対応と早期支援の取組が必要である（*SC：スクールカウンセラー、SSW：スクールソーシャルワーカー）
- 小・中・高等学校を通じて、不登校児童生徒が学びたいと思ったときに多様な学びに繋がることができるよう、環境を整える必要がある

令和8年度の取組

魅力ある
学校づくり

全ての児童生徒

早期発見
早期支援兆しが見えた
児童生徒多様な
教育機会
の確保学校に
通いづらい
児童生徒

①専門人材・関係機関等と連携した学校の体制の強化

②個々の児童生徒に
応じた学びの場の充実

◇いじめや不登校が生じないような魅力ある学校づくりの推進

- ・子どもの声を生かした校則見直し等の取組の推進
- ・校種間連携を意識した人権教育、生徒指導の推進
- ・保幼小中連携による不登校対策の推進

NEW

◇核となるスクールカウンセラー（SC）とスクールソーシャルワーカー（SSW）の配置

- ・SC及びSSWの常勤雇用によるエリア配置の実践研究
- ・児童生徒の変化を見逃さず教職員と連携した未然防止や早期発見・早期支援の実施

NEW

◇学校問題解決のための支援体制の構築

- ・学校管理職OB、警察OBがコーディネーターとなり、市町教委や学校を訪問し、いじめや問題行動が発生した時の対応などの研修やアウトリーチ型巡回相談を実施

拡

◇小中学校における「校内サポートルーム」の設置拡充

- ・校内サポートルーム設置にかかる環境整備や、児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援をするための地域人材等のコーディネーター配置を支援（新規20校を想定）
- ・校内サポートルームに運営コーディネーター教員を配置し、個別最適な学びを確保
（校内サポートルーム設置率：高知県：R7：32.3%、全国：58.7%）

拡

◇メタバース等の活用によるオンラインサポートの実施

- ・家庭で学びたい不登校児童生徒を対象に、学習・相談支援や社会性の向上につながる交流援助をオンラインで実施（週3日から週5日へ拡充）

◇県立大との連携によるKochi Teens Baseの運営

- ・学校に通いづらい中高生を対象に、福祉を勉強している学生ボランティアと共に学習支援や社会性の向上につながる支援を実施



拡

◇SOSの出し方に関する教育の推進

- ・学校と福祉部署等が連携し、児童生徒の援助希求的態度育成のための授業を実施
- ・指定地域（1市）や指定校（6校予定）の実践を踏まえた指導資料の作成（デジタルツールブック）

NEW

◇早期発見・早期支援のための相談支援コーディネーター教員の育成

- ・文部科学省と連携し、県立学校の「相談支援コーディネーター教員」を対象として、福祉教育プログラム及び心理教育プログラムの研修を行うことで、支援の実行力を高め、早期発見・早期対応を徹底

◇フリースクールとの連携・支援

- ・フリースクールと学校の連携を推進し、一定の要件を満たすフリースクールに対する支援を実施

NEW

◇学びの多様化学校の相談支援体制の充実への協力

- ・学びの多様化学校設置を設置した市町村との連携・協働
- ・学びの多様化学校に通う子どもの自立と社会参画を目指し、きめ細やかな個別支援ができる相談支援体制の充実への協力

学校内

学校外

重層的支援体制の整備・強化

校内サポートルーム（校内教育支援センター）

学校内の空き教室等を活用した部屋。安心して過ごせる居場所として、それぞれのペースに合わせて相談に乗ったり学習のサポートを行っている。

自分の教室へ居づらくなった児童生徒の他、教育支援センター等から直接、自分の学級への復帰が難しい児童生徒にとっての居場所にもなる。

○個別に学習するスペース

個人ブースなど、他の人の視線を感じず、安心した環境で学習を実施

○小集団での学習

スクール形式や円卓上など、生徒が学習しやすい体制で一斉、グループ学習を実施

○休憩スペース

ソファーなど、エネルギーを使い過ぎて疲れた時に休めるスペース



【令和7年度】県内公立小中学校87校設置（小学校39校、中学校48校）

（R7.6調査）

ICTを活用した支援

学級の授業風景や行事の様子をライブもしくは録画により配信したり、教育支援センターや家庭とオンラインでつなぎ、交流や相談したりする支援等を実施。



授業配信



行事の様子を配信

学校

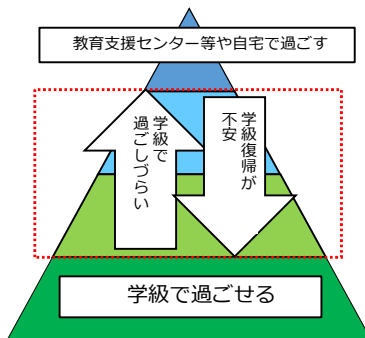


校内サポートルーム



相談

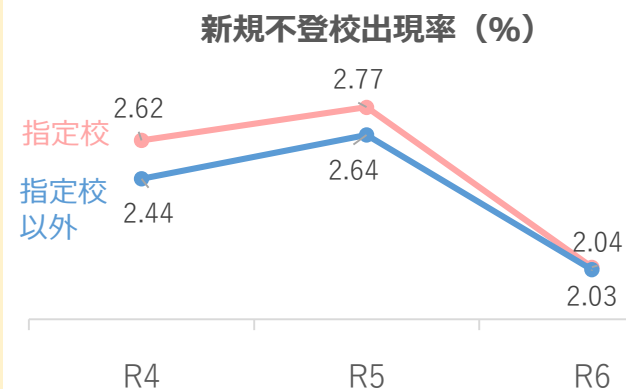
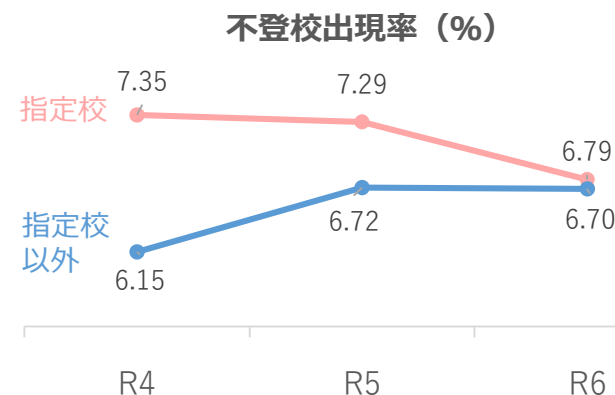
教育支援センターや家庭



指定校の校内サポートルームの取組

- ・コーディネーターが常駐し、サポートルームを運営。
- ・個々の生徒の実態を考慮し、それぞれに合った過ごし方を自己決定させ、実行できるよう配慮している。
- ・教科担当教諭が時間割を調整し、学習支援を実施。
- ・授業や体育祭等の行事をオンラインで配信。

【成果】指定校11校では、不登校出現率、新規不登校出現率とも抑制されている。



【課題】支援を行う教職員の配置がなくとも運営が可能となるような方法の研究。